平成２７年度　全国学力・学習状況調査の本校における調査結果

甲府市立新紺屋小学校

１　調査の本校の概要

（１）実施日　　平成２７年４月２１日（火）

（２）調査内容

○実施学年・人数　　本校６年生　２３名

○調査内容

〔教科に関する調査〕（国語・算数・理科）

◇主として「知識」に関する問題（Ａ問題）

・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容

・実生活に不可欠であり，常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

◇主として「活用」に関する問題（Ｂ問題）

・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

・様々な問題解決のための構想を立て，実践し，評価・改善する力

２　教科に関する調査の本校の結果について

（１）全体の結果

【平均正答率で見た本校の状況：全国・山梨県との比較】

平均正答率

		国　語		算　数		理　科
		Ａ問題	Ｂ問題	Ａ問題	Ｂ問題	
全　国		７０．０	６５．４	７５．２	４５．０	６０．８
山梨県		６８．５	６４．８	７４．１	４１．９	６０．４
本校	国との比較	○	○	△	△	△
	県との比較	○	○	△	△	△

※表の見方：○は上回っている。△は下回っている。

○全体の概要

・教科に関する調査の平均正答率は，国語Ａ問題・Ｂ問題は全国平均を上回り，理科は全国平均と比べて，わずかに下回っているものの，全国とほぼ同等である。しかし，算数Ａ問題・Ｂ問題は全国平均を下回り，課題があると言える。

○「知識」（Ａ問題），「活用」（Ｂ問題）ごとに見た場合の傾向

・全国の平均正答率との差で見ると，国語においては「活用」に関するＢ問題の方が，「知識」に関するＡ問題より上回っている。算数においては「活用」に関するＢ問題の方が，「知識」に関するＡ問題より下回っている。また，理科においては，主として「活用」に関する問題は全国の平均正答率を上回っている反面，主として「知識」に関する問題は全国の平均正答率を下回っている。

→　正答率で見ると，算数、特にそのＢ問題に課題があると言える。

（２）各教科の結果

■　国　語

【本校の課題】

○無解答率が全国及び県平均より高い。児童質問紙から読み解くと，時間が足りないと感じている児童が多い。

○「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすること」「新聞のコラムを読んで，表現の工夫を捉えること」「自分の課題を解決するために，意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること」「登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読すること」に課題が見られる。

【改善のための方策】

○　漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定する。また，国語辞典や漢字辞典の利用を習慣づける。

○　文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述など着目できるように指導する。

○　身の回りから，図表やグラフ、絵、写真などが用いられている文章や新聞記事を探し，それらの資料が用いられた意図や効果について考える指導を行う。また，図表やグラフなどが添えられた文章を提示し，それらを関係付けて読んだり，自分の考えを書いたりする指導を意図的に行う。

○　本や文章の内容や表現に合わせて音読の目的や方法を工夫させるとともに，相手を見たりことばの抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこととを関連づけて指導する。

■　算　数

【本校の課題】

○国語と同様に無解答率が全国及び県平均より高い傾向が見られる。児童質問紙の回答内容から読み解くと，時間が足りないと感じている児童が多い。

○基本的な知識や技能を実生活の様々な場面に活用することに課題がある。特に「示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めること」「事柄が成り立つことを図形の性質に関連づけること」「算数の学習から見いだした考えを，条件を変更した場面に活用して，発展的に考察すること」ことに課題が見られる。

【改善のための方策】
○　日常生活の事象の解決に，割合の考えを活用して合理的に判断する活動を充実させる。また，自分の考えを振り返り，誤りの原因や正しく判断できた理由を明らかにするとともに，的確に修正することができるように指導する。
○　日常生活の中に図形を見いだしたり，問題の解決に必要な図形の約束や性質を基に日常生活の事象を見直し活動を取り入れた指導を行う。また，課題を解決する場面において，理由やその方法について自分の言葉で説明する学習を取り入れる。
○　示された考えを基に，根拠となる事柄を過不足なく説明したり，条件を変更した場面で考察したりする場面を意図的に設定し，指導する。

■　理　科
【本校の課題】
○　全国との差を見ると、活用に関わる平均正答率は全国を上回るのに対して，知識に関する平均正答率全国を下回り，知識に課題がある。
○　学習指導要領の分類で見ると「エネルギー」と「生命」の平均正答率は全国を上回っているのに対して、「物質」と「地球」の平均正答率は全国を下回り，課題が見られる。また，評価の観点別で見ると科学的な思考・判断の平均正答率は全国を上回っているのに対して，実験観察の技能及び知識理解の平均正答率は全国を下回り，課題がある。

【改善のための方策】
○　実験・観察を通して、実感を伴って理解できるよう指導するとともに，器具の操作の意味を捉えさせ、その都度具体的に適切な扱い方を指導する。
○　実験・観察の「見通し」を持たせるとともに，結果からより妥当な考えにする学習活動（考察についての話し合い活動等）を重視した指導を進める。

（３）児童質問紙調査の本校の結果について
〔規範意識〕
□「いじめはどんな理由でもいけない」と考える児童は、全国・県と同じ傾向である。
○「学校のきまりを守る」と答えている児童の割合は全国・県と比べて高い。
〔自尊感情〕
○「自分にはよいところがある」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「将来の夢や目標を持っているか」は全国より良い傾向になっている。
〔生活習慣〕
○朝食は「どちらかをいえばしている」を含めれば１００％の児童が毎日食べている。
□寝る時刻・起きる時刻については，概ね全国・県と同じ傾向である。
〔家庭における学習以外の過ごし方〕
□「テレビ・ビデオ・ＤＶＤの視聴時間」は全国と比べ、４時間以上の児童の割合は少ないが、１時間以上の割合で見ると高い傾向にある。
○携帯電話やスマートフォンを持っていない児童の割合は高く，「携帯電話・スマートフォンでの通話・メール・インターネットの時間」の割合も全国・県と比べ少ない。
△「テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、携帯・スマートフォンでのゲーム）の利用時間（１日１時間以上の者の割合)」は全国と比べて高い。
〔学習習慣〕
○読書（１日１０分以上）は全国・県と比べると高い傾向にある。
□家庭での学習時間は、全国と比べ、３時間以上学習している児童の割合は少ないが、３０分以上学習している児童の割合は高い。
○授業の予習・復習をしている割合は全国・県より高い。
〔学習に対する意識〕
○課題を立て、その解決に向け情報を集め話し合い整理して発表している学習活動に良く取り組んでいると回答している児童の割合は全国と比べ高い傾向にある。
△ノートに学習のめあてとまとめを書いていたと感じている児童の割合が少ない。
○国語の学習について、好き・大切・内容がよく分かると感じている児童の割合は高い。
△算数の学習において、好き・大切・将来社会に出たときに役に立つと考えている児童の割合は低い。
△将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思っている児童の割合は少ない。
〔社会に対する関心〕
○新聞やニュースを見る児童の割合は全国・県と比べて高い。
〔今回の調査における態度・意欲〕
△国語Ｂ・算数Ｂにおいて、調査問題の解答時間が足りないと答えている児童が多い。

【改善のための方策】
○「見通し」と「振り返り」を意識した授業づくりを進める。
○自分のノートづくり，学習の「あしあと」としてのノートづくりを意識させ、発達段階に応じたノート指導を進める。
○家庭と連携し，家庭学習の充実を図るとともに，ゲームやスマートフォンなどの使用時間など家庭での過ごし方について啓発していく。